

令和5年度 学校評価報告書(目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	これからの時代を心豊かにたくましく生きていく力を育むため、主体的に学ぶ意欲を高め、資質・能力を育成する教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。	(1)生徒が主体的な学びを実現できるような授業実践をする。新教育課程の完成年度を見据え、生徒の資質・能力の育成するような教育課程の点検・改善に取り組む。 (2)主体的・対話的かつ教科横断的な学びの視点を踏まえた授業力向上推進重点校事業として、ルーブリック評価やICT活用を含めた振り返りを行い、生徒の自己調整学習を促す。	(1)①授業力向上推進重点校としての組織的な授業改善に取り組む。 ②進路希望に対応した教育課程を編成する。 (2)①生徒の主体的・対話的な学びが継続する活動を行う。 ②各学期の研究授業の実践と、ルーブリック評価を実施する。 ③ICTやその他のツールを使用した振り返りを設定する。 ④ICT利活用による校務の効率化と情報スキルの向上を図る。	(1)①授業アンケートの当該項目の数値が昨年度に比べ上昇したか。 ②生徒のニーズを踏まえた選択科目の展開・設定ができたか。 (2)①②全教科で各活動の基準となるルーブリック評価が実施できたか。 ③全教科で適切なツールを使用した振り返り活動が週に1回は実施できたか。 ④適切なタイミングで、職員と生徒双方が滞りなくICT利活用ができたか。					
2	生徒指導・支援	部活動や行事、日常的な生徒指導を通して、社会規範を身に付け責任感や連帯感を高め、自己実現に向けて努力する姿勢と命を大切に育む。	(1)新型コロナウイルス感染の新しい対応策を踏まえながら、生徒が部活動や学校行事に積極的に参加し、他者との関わりの中で自己有用感を持つことができるよう指導、支援する。 (2)①学校説明会での生徒参加により、生徒自らの自己肯定感を高める。 ②「1人1台端末」の活用が更に促進されているため、生徒の情報モラルの向上に一層努める。	(1)①学校行事に生徒が中心となって取り組めるよう内容を精選し、保護者や地域と協力しながら運営する。 ②部活動加入率を保ち、部活動の活性化を図る。 ③交通安全に係る定期的な指導を行う。 ④教育相談窓口を活性化し、外部機関等とも連携し適切な対応がとれる組織を構築。職員の知識やスキル向上を図る。 (2)①ボランティア委員や生徒会と協力し、質の高い学校説明会を運営する。 ②情報モラル向	(1)①アンケートにおける生徒や保護者等の満足度が高まったか。 ②2、3年次の部活動加入率が低下していないか。 ③交通事故や近隣からの苦情が減少したか。 ④SNSでの問題行動が減少したか。起こった場合、組織的に対応できたか。職員の知識やスキルの向上が図れたか。 (2)①学校説明会で、生徒のスタッフ参加を促し、アンケート結果の満足度が8割以上となったか。 ②情報モラル向					

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			上の研修会等を実施する。	上のための研修を行えたか。					
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりの進路希望実現に向け、自らのキャリア発達を意識できる、3年間を見通した進路指導の充実を図る。	(1)生徒一人ひとりの進路実現を支援する体制を充実させる。 (2)3年間を見通した進路支援を行い、キャリア意識の向上を図る。	(1)2学年の早い時期に「第1志望宣言」を書かせ、生徒1人ひとりの進路希望に対応したきめ細やかなキャリア支援を行う。 (2)Classi等のツールや外部講師を活用、生徒のキャリア意識の向上を図る。	(1)情報提供や進学指導を充実させ、生徒の進路実現をサポートすることができたか。 (2)Classi等のツールや外部講師を活用し、生徒のキャリア意識の向上を図ることができたか。				
4	地域等との協働	地域に開かれた学校としての取組みをさらに進め、保護者や地域、大学等外部機関、行政機関等との連携を促進し、協働と信頼に根ざした学校づくりを推進する。	(1)地域と連携・協働する機会を多く持ち、地域に学校の情報を発信し、生徒の主体性を向上させる。 (2)他校や大学等との連携を促進し、協働と信頼に根ざした学校づくりを推進する。 (3)ICTを利用し次世代を担う人づくりを実践する。	(1)生徒の活動を通して、地域や外部機関との交流を図る。 (2)部活動や委員会を中心に他校、外部関係者との外部連携を推進する。 (3)本校のクラウドシステムを用い、諸連絡やアンケートなど様々な場面で保護者にも同システムを利活用してもらおう。	(1)各活動に部活動や委員会の生徒に参加してもらえたか。 (2)外部と協力し、生徒の活動を充実させられたか。 (3)三者面談を通し、全保護者の登録状況・利用状況の確認をし、活用を促すことができたか。				
5	学校管理 学校運営	保護者や周辺地域による、本校の教育活動に対する理解を深化させるとともに、安全・安心・快適な学習環境を整備し、保護者や県民から信頼される学校づくりを確立する。	(1)教育環境の整備(安心、安全、快適な学習環境の整備) (2)生徒、職員の学校防災活動の日常からの意識付けを図る (3)防災備蓄品の整備と拡充 (4)40周年式典の準備、運営 (5)ICT利活用のインフラの整備を推進する (6)関係部署で生徒のアカウントの整理、管理を行う。	(1)SDGsを視野に入れた教育環境を整備する。 (2)災害等緊急事態に素早く対応し、早期に学習環境の通常復帰ができるよう、様々な場面を想定して、対応策を検討する。 (4)PTA、同窓会、校内各グループと綿密に連携し、運営を進める。 (5)全HR教室でのデバイス活用が快適に行えるよう整備する。 (6)生徒のアカウントの適切な管理を行う。	(1)重点項目にしっかりと手厚い整備・整備ができたか。 (2)実践的かつ実用的な防災意識を、日常的に各教科などの学習活動にも広げて意識付けを図れたか。 (4)滞りなく実施できたか。 (5)教員・生徒双方のICT利活用がスムーズに行える教室の環境整備ができたか。 (6)生徒のアカウント管理について周知徹底できたか。				